

参考文献

- 池田透 1999 野幌森林公園におけるアライグマ問題について 森林保護 272: 28-29.
- 石城謙吉、嶋田忠 1983 ウトナイの鳥 平凡社 117 pp.
- 井上元則 1970 野幌のアオサギ発見記 野鳥だより -北海道- 第3号 3-4.
- 梅木賢俊 2004 朝里ダムの湖上でアオサギ営巣 あおぼと 85号 日本野鳥の会小樽支部
- 大畑孝二 1990 ウトナイ湖の鳥類保護に関する提言 Strix 9: 191-199
- 片岡新助 1956 青鷺の営巣探研集 はくぶつかんしんぶん 42-43
- カムイミンタラ編集室 1985 苫小牧・アオサギの森 カムイミンタラ 5月号 6-13
- 環境庁 1994 第4回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(鳥類の集団繁殖地および集団ねぐら) 日本野鳥の会 東京
- 紀藤義一 1978 明野アオサギコロニー調査報告書 苫小牧自然保護協会 1-33
- 清棲幸保 1978 日本鳥類大図鑑Ⅲ 講談社
- 斉藤春雄 1970 野幌自然休養林におけるアオサギ調査報告書 札幌営林局 53 pp.
- 斉藤春雄 1971 野幌自然休養林におけるアオサギ調査報告書 札幌営林局 30 pp.
- 佐原雄二、作山宗樹、出町玄 1994 繁殖期におけるアオサギ *Ardea cinerea* のエサと採餌場利用 日本鳥学会誌 43 67-71
- 苫小牧郷土文化研究会 1964a 青鷺営巣地第三次調査報告書
- 苫小牧郷土文化研究会 1964b 青鷺営巣地調査報告
- 苫小牧市 1991 苫小牧市の環境
- 苫小牧民報社 1982 アオサギ物語 教育委員会
- 橋場貴幸 1993 アオサギの繁殖生態及び自然教育についての検討 学士論文 北海道教育大学釧路校 119 pp.
- 橋本正雄 1985 釧路湿原、厚岸町におけるアオサギ営巣地について 釧路市立博物館紀要 第10輯 19-27
- 橋本正雄 1986 鳥類に対する影響 釧路湿原の火災にかかる自然環境影響緊急調査報告書 58-67 北海道自然保護協会
- 橋本正雄 1987 北海道東部、阿寒湖およびその周辺の鳥類センサスについて 釧路市立博物館紀要 第12輯 7-22
- 橋本正雄、加藤春雄、富岡辰先 1988 釧路湿原のアオサギ・コロニー 釧路市立博物館館報 312 117-119
- 橋本正雄、加藤春雄、杉山伸一、深沢敬、橋場貴幸 1992 北海道東部、釧路湿原におけるアオサギの営巣についてⅡ 釧路市立博物館紀要 第17輯 37-46
- 藤井薫 1992 標津川のアオサギ営巣地(コロニー)について 標津町ポー川史跡自然博物館紀要 標津の自然、歴史、文化 第1号 31-42
- Voisin, Claire. 1991. The herons of Europe. T. & A.D. Poyser, London, U.K. xi, 364 pp.
- 松長克利 1993 北海道におけるアオサギの営巣地の分布と営巣環境 修士論文 北海道大学

大学院環境科学研究科

- 松長克利 1998 北海道標津町のアオサギ営巣地について 標津町ポー川史跡自然博物館紀要
標津の自然、歴史、文化 第7号 1-17
- Matsunaga, Katsutoshi 2000. Effects of tidal cycle on the feeding activity and behavior of
Grey Herons in a tidal flat in Notsuke Bay, northern Japan. *Waterbirds*. 23(2).
226-235.
- Matsunaga, Katsutoshi, Aoi Matsuda, and Hiromi Fukuda. 2000. Changing trends in
distribution and status of Grey Heron colonies in Hokkaido, Japan, 1960-1999.
Japanese Journal of Ornithology. 49: 9-16.
- Matsunaga, Katsutoshi. 2001. Distribution and breeding behaviors of the Grey Heron in
Hokkaido, northernmost Japan. Ph.D. thesis, Hokkaido University, Sapporo, Japan.
- 水間秀文 1995 1994年アオサギ調査報告 あかげら 第13号 20 名寄野鳥の会
- 柳川久 1997 幕別町猿別におけるアオサギコロニーについて 帯広百年記念館紀要 第15号
29-37
- 山末隆 1992 音威子府村におけるアオサギコロニーの誕生について あかげら 第10号 48
名寄野鳥の会

ご連絡とお願い

本報告書は最新の調査結果をもとに書いていますが、アオサギの生息状況は絶え間なく変化しているため、時間の経過とともに報告の内容が実情にそぐわなくなることが予想されます。そこで、北海道アオサギ研究会では今後ネット上に独自のホームページをつくり（本年4月中を目途に公開予定）、本報告書の内容を公開するとともに随時最新の情報に更新していく予定です。ホームページのアドレスは <http://www5c.biglobe.ne.jp/~ardea/report.html> に設定の予定です。なお、アクセスできない場合は「北海道アオサギ研究会」で検索してみてください。

本報告書にはなるべく多くの情報を盛り込むように努めましたが、聞き取りや資料調査に関しては十分な情報収集ができなかった項目もあります。また、地元の人からの聞き取りは貴重な情報が含まれている一方で、サンプル数が少ないため偏った情報になっているところもあると思われます。こうした点については今後さらに多くの情報を集めることでホームページ上の内容をより正確なものに改善していく所存です。皆様からのアオサギに関する情報を引き続きお待ちしております。

本報告書は基本的に一般公開可能なものとして作成しましたが、民地にあるコロニーの場合、林の所有者がメディアや観察者の訪問を必ずしも快く思っていない場合もあり、コロニーの所在が公になることに抵抗を持つ方もおられました。そうした状況がある場合には各コロニーの詳細を記した部分で個別に記していますので、林の所有者に迷惑がかからないようご配慮のほど宜しくお願いいたします。

以上、本報告書について皆様からのご意見、ご指摘などいただければ幸いです。

連絡先 001-0016 北海道札幌市北区北16条西4丁目21
北海道アオサギ研究会代表 松長克利
電話 011-709-9099 携帯 090-6445-2220
email ardea@mwb.biglobe.ne.jp

おわりに

私が初めてアオサギに出会ったのは、1990年代の初め、野幌の森であった。うららかな新緑の森を歩いていた私の頭上を、あの異様な声をあげながら突如横切った黒い影は、鳥というよりむしろ翼竜のように思えたものだった。その直後、私はコロニーというものを初めて見たのだが、さながら恐竜の時代へ迷い込んだかのような錯覚に陥ったことを今でもはっきり覚えている。

それ以来、道内のコロニーを数多く訪れることになったが、どのコロニーもひとつとして同じものはなかった。数つがいであつまく暮らしている山間のコロニーもあれば、まさにサギの王国を感じさせる巨大コロニーもあった。また、町の公園で子育てを始めた大胆なサギたちもいれば、水上生活に活路を見出したしたたかなサギたちもいた。それぞれのコロニーにはそれぞれの暮らしがあった。それは我々が暮らしている町や村の有り様と何ら変わりのないものである。つまり、彼らは76の町や村に暮らしているのだ。そしてもうひとつ忘れてはならないのは、それぞれのコロニーにはそれぞれの歴史があるということだ。ともすれば、我々人間は自分たちだけが時の流れの中に生きており、他の動物は時とは無関係にただそこにいるだけのように思いがちである。しかし、彼らもまた我々と同じように今のこの時代を生きており、絶え間なく変化する状況の中で、日々、新たな出来事を彼らの歴史に積み重ねているのである。

北海道は人の暮らす大地であるとともにアオサギの住む大地でもある。その生活圏はここまでは人、ここからはアオサギというように区分できるものではなく、互いに分かちがたく結びついている。そして、人とアオサギは同じ時間を生き、同時代の歴史を形づくっている。今この瞬間にも人が生活しているのと同じく道内のあちこちでアオサギの生活が営まれているのだ。そのことを実感として持ち続けることが人とアオサギの共存にとって最も必要なことだと思うのである。

この報告書ではそうした思いから彼らが置かれている状況を歴史的な視点を交えて捉えたつもりである。それは結果としてアオサギと人間との関わりを紐解いてゆくことでもあったと思う。この報告書がそうした試みにいくらかでも成功していれば嬉しい。

最後に、この調査を遂行するにあたりご協力を賜った方々に厚く御礼を申し上げます。とくに現地調査の折りには地元の方々から貴重な情報をいただきました。北海道の隅から隅まで本当に多くの方々にお世話になりました。心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

2005年3月吉日

松長克利